

# RETAILER ACADEMY NEWS

Jul 2018 | Bentley Motors Japan



CENTENARY 100周年へのカウントダウン

## 継承してきたW.O.の哲学を 表現する動画を公開

ベ

ントレー モーターズは7月10日、ベントレーの100周年に向けたカウントダウンを開始しました。この特別なマイルストーンは、ベントレーの歴史と世界的な成功を祝うもの。その事業の第一弾として、100年の歩みを紡いだアニバーサリー・ムービーを公開しました。

「An Extraordinary Grand Tourer: The Story of Bentley」と名付けられた動画では、創業者W.O.ベントレーから最新のコンチネンタルGTまで、100年という長い時間の間に、ベントレーに深く関わった非凡な才能を持つ人物や、モータースポーツでの栄光、過去に世に送り出してきたモデルを紹介しています。

動画はW.O.がアルミニウム製のペーパーウェイトを見えない壁に貼り付けるシーンから始まります。これは、W.O.が革新的なアルミ製ピストンの設計を思いついたというエピソードに基づいています。次のシーンでは、見えない壁が破られて1世紀におよぶベントレーの革新と成功の旅へと導く構成となっています。伝説のベントレー・ボーイズとベントレー・ガールズ、ル・マンで勝利を収めた「Blower」と「Speed 8」、「ブルー・トレイン」との競争で一躍有名となったウルフ・バーナートらの姿も見ることができます。また、この動画では、グラントツアラーのスタイリング、ボディ表面の処理、ラグジュアリーな

素材といった、ベントレーを今日まで永続的なブランドにしてきた要素からもインスピレーションを得ています。

動画の制作にあたっては、役者を3Dスキャンでデジタル化し、金属のようにモデリングしたほか、過去の肖像などを様式化しました。これらをハリウッドで使用されているモーション・グラフィックの技術を組み合わせて制作し、ベントレーが紡いできた100年間のストーリーを伝えています。



W.O.を演じた役者を3Dスキャンでデジタル化。金属のようにモデリングした。

ベントレー モーターズは、1919年にW.O.が「速いクルマ、良いクルマ、クラス最高のクルマ」を作るというシンプルな目的のために設立した会社です。それ以来この哲学を曲げることなく推進してきたことから、ベントレーは今では世界のラグジュアリーカーをリードするブランドとなっています。

※アニバーサリー・ムービーはこちらからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=S8WLWNVCUSg>



過去99年間でベントレーが世に送り出してきたモデルから新型コンチネンタルGTへと続く伝統を表現。



# ついに登場した ラグジュアリー SUVの頂点 ロールス・ロイス カリナン



ロールス・ロイスは、以前から開発を行っていた同社初のSUVモデル「カリナン」を5月10日に発表しました。さらに発表からわずか1ヶ月後の6月11日には、日本においてもカリナンのローンチ・イベントを開催。新型SUVにかける同社の強い意気込みが感じられます。

## 同社の歴史に新たな1ページを刻む重要なモデル

ロールス・ロイスの100年を超える歴史において初のSUVとなるカリナンは、オールアルミ製スペースフレームの「アーキテクチャー・オブ・ラグジュアリー」を採用しています。フラッグシップモデルの新型ファントムに用いられたこの次世代プラットフォームは、特徴の異なるモデルにも対応できるよう設計され、今後登場するロールス・ロイス各車にも展開されます。

カリナンの開発においては「魔法の絨毯のような乗り心地」をオンロード、オフロードを問わず実現するため、新たな技術をいくつも投入しています。例えば、走破性や走行安定性を高めるため、ロールス・ロイスとしては初となる4輪駆動システムを採用。また衝撃を緩和するため、セルフレベルリング式エアサスペンションには空気量を増加させた大型エアストラットを追加しています。さらにファントム譲りの6.75L V12ツインターボエンジンは、より低回転域で最大トルクが発生できるよう専用のチューニングが施されています。



史上最大のダイヤモンド原石から命名された「カリナン」

## ボタンを押すだけでオフロード走行に対応

多くのラグジュアリー SUVでは、オンロードとオフロードそれぞれの走行特性を最適化するため、路面状況や走行シーンに応じてドライビングモードが切り替えられるモデルが一般的です。しかしカリナンでは、センターコンソールのオフロードボタンを押すだけのシンプルな構成となっています。これはボタン操作ひとつでオフロード機能が最適化されるという同社の考えによるもの。必要なオフロード機能を提供するボタンは、このオフロードボタンとヒルディセントコントロールの2つしかありません。



オフロード関係のボタンは右列の2つのみ。ちなみに最大渡河水深は540mmを確保している

## 堂々とした佇まいのエクステリア

カリナンのスタイリングは、ロールス・ロイス各モデルに共通する特徴を数多く備えています。フロントグリルは他のモデルに比べて前方および上方に配置され、押し出し感の強いフロントマスクを形成しています。ボディサイドでは同社の他のモデルと同じ後ヒンジ式のコーチドアが装備され、高いルーフラインとともに室内空間の広さを印象付けています。リア周りはガラスエリアの下にデッキ上の段差を設けることで、3ボックス風のデザイン処理を行っているのが特徴。同社初の装備となるテールゲートは、上下2分割式です。



ラゲッジルームには、オプションで2名分の電動格納式シートを装備できる

ディメンションは、全長5,341mm、全幅2,164mm、全高1,835mmという堂々たるもの。全長はファントムより400mm以上短い一方、全幅と全高はいずれもファントムを上回ります。水平基調のスタイリングと相まって、ファントムと並べても遜色ない存在感を放っています。



## SUVらしさよりロールス・ロイスらしさを表現したインテリア

インテリアの造形は、まさにロールス・ロイスそのもの。スポーティなデザインテイストが主流のラグジュアリー SUVとは一線を画した空間が特徴です。また、ダッシュボード上面にはイタリア製高級ハンドバッグなどと同じ耐久・耐水性のあるレザー素材を採用することで、インテリアにエレガントなアクセントを加えています。



## キャビンとラゲッジルームを分離した仕様も設定

リアコンパートメントは、顧客のニーズに応じて2種類の仕様を選択できます。

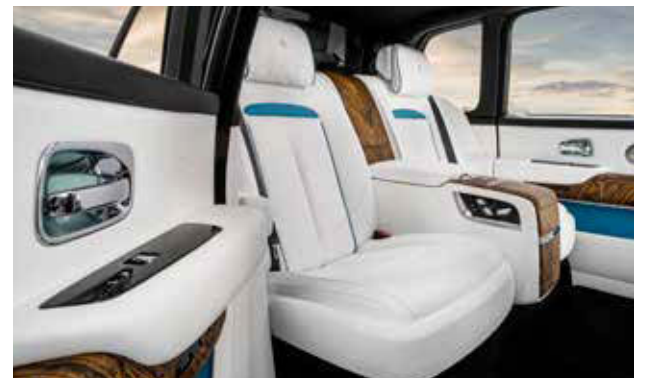
後席が3人掛けとなるラウンジシート仕様はいわばファミリー向けで、同社初の可倒式リアシートを備えています。左・右・中央の背もたれはスイッチ操作で倒すことができ、長尺物の収納にも対応。ラゲッジ容量は560Lで、リアシートの背もたれを倒した状態では最大1886Lまで拡張できます。



ラウンジシート仕様は、ラゲッジルームを拡張できる使い勝手の良さが特徴

一方、後席が2人掛けとなる独立シート仕様は、SUVに究極のラグジュアリー性を求める顧客向けです。左右のリアシートには分割可倒機構の代わりにリクライニング機構を装備。左右のシート間には、ウイスキーグラスやシャンパンフルート、クールボックスを収納する大きなコンソールボックスが設置されます。

ユニークなのは、リアシートの後方にガラスパーティションを設置してキャビンとラゲッジルームを完全に分離したこと。これにより、テールゲートを開いてもキャビンは最適な温度に保たれます。SUVでありながら、3ボックスセダンのような使い方ができるこの仕様には、SUVであっても快適性には一切妥協しないという同社のこだわりが感じられます。



独立シート仕様は、シート後方にガラスパーティションが備わる

注目の価格は38,945,000円。4ドアセダンのゴーストが34,100,000円、フラッグシップモデルのファントムが54,600,000円であることを考えると、割安感のある価格設定といえます。名実ともにSUVの頂点に立つ存在だけに、今後のラグジュアリー SUVマーケットの動向に注目されます。



## COMPETITORS INFORMATION



### ニューモデル BMW M4カブリオレ

発表・発売日	2018年5月24日 受注開始
概要	・ 初代M3の時代から設定されていたカブリオレを日本市場に初導入 ・ 450ps、550Nmを發揮する3.0L 直6ターボエンジン+7速DCTを装備 ・ 初代M3 カブリオレの発売30周年を記念した世界限定車を10台限定で販売
車両価格(税込)	BMW M4 Cabriolet Competition: 13,800,000円 BMW M4 Cabriolet 30 Jahre: 14,830,000円
デリバリー開始時期	2018年秋以降



### ニューモデル BMW i8クーペ/i8ロードスター

発表・発売日	2018年4月9日 発売
概要	・ クーペボディに加え、新たにロードスターボディを追加 ・ 高電圧リチウムイオンバッテリーの容量を13Ahアップの33Ahに ・ 電気モーターの出力アップにより、システム全体出力は9kW/12psアップの275kW/374psに
車両価格(税込)	BMW i8クーペ: 20,930,000円 BMW i8ロードスター: 22,310,000円
デリバリー開始時期	2018年9月以降



### ニューモデル ランボルギーニ・ウラカン ペルフォルマンテ スパイダー

発表・発売日	2018年5月28日 発表
概要	・ ウラカンの高性能モデルにオープントップ仕様を追加 ・ 640ps、600Nmを發揮する5.2L V10自然吸気エンジンを搭載し、駆動方式はAWD ・ ウラカン・スパイダーから35kg軽量化し、パワーウェイトレシオは2.35kg/ps
車両価格(税込)	ウラカン ペルフォルマンテ スパイダー: 38,462,614円
デリバリー開始時期	—



### 特別仕様車 レンジローバー・ヴェラル 特別仕様車

発表・発売日	2018年5月23日 発表
概要	・ 「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー 2018」受賞を記念した初の特別仕様車 ・ 2018年5月22日～9月30日までの期間限定受注 ・ 人気の高いオプションを標準装備
車両価格(税込)	RANGE ROVER VELAR BASIC: 6,990,000円 RANGE ROVER VELAR PLUS: 7,490,000円(ディーゼル) RANGE ROVER VELAR PLUS: 7,650,000円(ガソリン) RANGE ROVER VELAR DYNAMIC: 8,560,000円
デリバリー開始時期	—



### 一部改良 レンジローバー・スポーツ 2018年モデル

発表・発売日	2018年4月27日 発表
概要	・ フロントグリル、前後バンパー、ヘッドライトなどのスタイリングを一新 ・ RANGE ROVER SPORT SVRの最高出力を575psにパワーアップ ・ 電子制御エアサスペンションを標準装備
車両価格(税込)	主なラインアップ RANGE ROVER SPORT SE (3.0L V6スーパーチャージド・ガソリン、340ps): 8,730,000円 RANGE ROVER SPORT AUTOBIOGRAPHY DYNAMIC (5.0L V8スーパーチャージド・ガソリン、525ps): 14,440,000円 RANGE ROVER SPORT SVR (5.0L V8スーパーチャージド・ガソリン、575ps): 16,810,000円
デリバリー開始時期	—



### 一部改良 レンジローバー 2018年モデル

発表・発売日	2018年4月27日 発表
概要	・ フロントグリル、前後バンパー、ヘッドライトなどのスタイリングを一新 ・ ゆったりと深く着座できるよう改善されたシート ・ ホットストーンマッサージ機能など快適装備を充実
車両価格(税込)	主なラインアップ RANGE ROVER VOGUE (3.0L V6スーパーチャージド・ガソリン、340ps): 14,090,000円 RANGE ROVER AUTOBIOGRAPHY LONG WHEELBASE(5.0L V8スーパーチャージド・ガソリン、525ps): 20,160,000円 RANGE ROVER SVAutobiography (5.0L V8スーパーチャージド・ガソリン、565ps): 31,080,000円
デリバリー開始時期	—

## CENTENARY

# リテーラーの皆様とともに100周年を祝福 記念事業成功に向けたガイドライン



ベントレー モーターズは2019年7月10日に創業100周年を迎えます。これに向けて、ベントレー モーターズは100周年を祝福する重要なキャンペーンをスタートさせました。キャンペーンでは長きに渡ってベントレーを支えてくださった熱烈なファンや最高のお客様たちに喜んでいただけるような、特別限定車の製作などを計画（すでに第一弾となるミュルザンヌW.O.エディション by マリナーを発表。詳細はP4を参照）しています。

創業者W.O.ベントレーは、シンプルながら明確な目的のために会社を設立しました。それが今日まで受け継がれている「速いクルマ、良いクルマ、クラスで最高のクルマ」を作るという哲学です。ぜひ、リテーラーの皆様には、この哲学をあらためてお客様に伝えていただき、ベントレーの伝統と現代的に洗練されたラグジュアリーカーを祝福してくださいよう、お願いいたします。

### 100周年記念事業への携わり方

#### 独自イベントなどの開催

リテーラーの皆様には、お客様に参加していただける「Extraordinary Dinner」のようなイベントの開催を提案します。詳細なガイドラインは後日決定しますが、どのようなイベントを開催するか、どなたをご招待するか、どこで開催するかなどを事前に考えておいてください。

#### 100周年のハッシュタグの使用

ソーシャルメディアで100周年に関する投稿を行う場合は、必ず「#Bentley100Years」を付けるようにしてください。

### 100周年ロゴ

100周年のロゴはすでに完成しており、ダウンロードできる状況にあります。このロゴは100周年を視覚的に祝う表現方法です。2019年

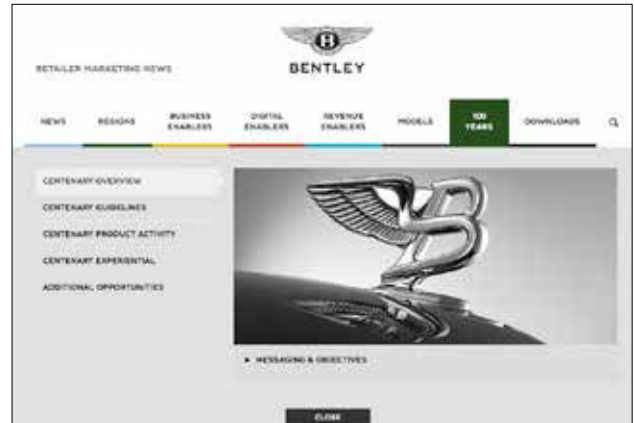
12月まで、ベントレーはコミュニケーションの場において、この新しいロゴを使用します。使用方法に関しては、先のマーケティング ミーティングの際に説明させていただいた資料をご確認ください。



100周年のロゴは白と黒の背景を用意。横幅の狭いバージョン（右端）も背景は白と黒が用意されている。

### 100周年セクション

リテーラー マーケティング ニュースには現在、「100 Years」というセクションが設けられています。ここに掲載される100周年に関するコンテンツは随時更新されます。ベントレー モーターズ ジャパンからのご案内はいたしますが、このセクションを定期的にチェックするようにしてください。







# ミュルザンヌ W.O. エディション by マリナーを発表 100年のストーリーを表現する極上の1台

ベントレー モーターズは、100台限定のミュルザンヌ特別仕様車「ミュルザンヌ W.O. エディション by マリナー」を発表し、ビスポークにおける技術の高さとベントレーの美しさをあらためて示しました。このクルマは創業者W.O.ベントレーに敬意を払い、ベントレーの歴史を感じられる要素を盛り込んでいます。2019年にベントレーが創業100周年を迎えるにあたり、マリナーのデザイナーはW.O. エディションに過去99年にわたって紡いできた比類なきブリティッシュカーのストーリーを反映。真のコレクターズアイテムとして製作しました。

ミュルザンヌ W.O. エディションは、お客様の好みによってミュルザンヌ シリーズのいずれのモデルでも対応します。主な特徴は、ピンテージ車の美しさを反映したヘリテージレザーのカラーズプリットと、エレガントなBelugaのホイール、そしてW.O. が所有した8リッターに使われていたクランクシャフトをスライスしたものをアームレストに組み込んだカクテルキャビネットです。

この特別仕様車は、8月下旬にカリフォルニア州のモントレー カーウィークでパブリックデビューを果たし、お客様へのデリバリーは100周年にあたる2019年に開始する予定です。



## 埋め込まれた歴史のピース

ミュルザンヌ W.O. エディション by マリナーは、英国の自動車産業の「黄金時代」と呼ばれた時代に製造された8リッターからデザインの要素を取り入れています。

インテリアは、1930年代のラグジュアリーなリビングルームからインスピレーションを受けた絶妙な機能性を表現しています。最大の特徴は、1930年にW.O. が最後に設計し、W.O. が個人として所有していた8リッターのクランクシャフトをスライスして照明付きカクテルキャビネットに埋め込んでいる点です。手作業で組み上げたキャビネットには、幾何学的なフロントマトリクスグリルと8リッターのヘッドランプを描きました。その中にW.O. が所有した8リッターのクランクシャフトが埋め込んでいます。



## 8リッターの内装を思わせるインテリア

レザーは Fireglow Heritage と Fireglow hide をオリジナルのカラーズプリットで配色し、細かい部分はBelugaのレザーとブラインドステッチで補完。できる限り8リッターの内装の雰囲気を出すように工夫されています。ウッドパネルには Dark Stain Burr Walnut が使われ、マイナーゲージパネルやステアリングなどをクラシックに仕上げています。フェイスパネルにはW.O. のサインも入っています。さらに、W.O. ベントレーの署名バッジがボディ下部に装着されているほか、100周年記念仕様のトレッドプレートが装着されています。







## パイクスピークでベンティガが躍動！ 市販SUV部門の記録を約2分更新

去る6月24日にアメリカ・コロラド州で開催されたパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムで、ベントレーのベンティガが市販SUV部門に出場し、これまでの同部門の記録を2分近く更新しました。

これまでの市販車SUV部門の記録は12分35秒61。今回のベンティガはそれを2分近く上回る10分49秒9をマークしました。156のコーナーを含む全長約20km・高低差約1524mの難コースですが、過去にこのレースを2度制覇した経験を持つニュージーランド人ドライバーのリース・ミレンは、ヒルクライムのスペシャリストとしてさすがのドライビングを披露しました。

ヒルクライムに出場したベンティガは、W12モデルをベースにレギュレーションに合わせて改造されたもの。フロントシートはレース用のものに交換され、リアシートは取り外されました。また、安全のためロールケージが組み込まれたほか、消火装置が備えられています。タイヤはピレリ社から供給を受け、エグゾーストシステムはコンチネンタルGT3-Rで専用システムを供給したAkrapovicが担当しました。逆に言えば、それ以外はほぼ市販のベンティガと同じ仕様のため、ベンティガの基本的なパフォーマンスが非常に高いことを示したことになります。ベントレー モーターズのクリス・クラフト取締役（セールス&マーケティング担当）は、「この記録によってベンティガの卓越した性能とパフォーマンスを証明できました。リース・ミレンをはじめ、ベントレーのモータースポーツチームを祝福します」などと語っています。



### リース・ミレンのレース直後のコメント

本当に素晴らしいマシンです。ラグジュアリー SUVに最低限の改造を施しただけですが、11分以内でこのコースを走破できるようにすることは、ベンティガのパフォーマンスとエンジニアのレベルの高さを証明しています。今日、私はとても良い走りでしたが、激しくプッシュできるクルマにチームが仕上げてくれたことでその自信が持てたのです。ベントレーとこのプロジェクトに携わった全ての人とともに、市販SUVの記録更新を達成できた喜びを分かち合いたいと思っています。



### MOTOT SPORT

## SUZUKA 10hにベントレー・チームMスポーツが参戦 日本屈指のサーキットでワークスチームの 本気の走りを



8月24・25日に鈴鹿サーキットで開催される耐久レース「SUZUKA 10h」に、ベントレーのワークスチームであるベントレー・チームMスポーツが参戦します。マシンはもちろんコンチネンタルGT3で、ソウセツク、スーレ、アブリルの07号車と、ベッパ、ゲーノン、ケインの08号車の2台体制で出場。日本で活躍するSUPER GTのトップドライバーと、ベントレーを含めた海外の有名ドライバーが多数参戦するハイレベルな耐久レースになることが予想されます。ブランパンGTシリーズに参戦するワークスチームのドライバーたちが本気でドライブするコンチネンタルGT3を間近に見られる絶好の機会です。お客様にも積極的にご案内いただき、熱いご声援をお送りください！



### RETAILER

## 横浜店と世田谷店がオープン 首都圏での新たな販売拠点に期待



ベントレーの首都圏での販売拠点として、ベントレー横浜とベントレー東京 世田谷（写真上）の2店舗がこのほどオープンしました。

ベントレー横浜（SKYグループ）は5月1日に準備室を開設してオープンの準備を進めてきましたが、6月30日・7月1日の2日間にオープニングイベントを開催して正式にオープンしました。イベントでは新型コンチネンタルGTの特別展示会を行い、今後も神奈川エリアのお客様にベントレーの魅力を伝えて参ります。

ベントレー東京として2店舗目となるベントレー東京 世田谷（Cornes）は、閑静な歴史ある街並みを臨む抜群の立地に7月21日グランドオープン。青山ショールームと合わせ、特に城南エリアのお客様のニーズに応えていただくことになります。



# ベンティガ V8の実力とは

2018年初頭、ベンティガに新しい仲間が加わりました。それがベンティガ V8です。名前にあるとおり、新世代のV8エンジンを搭載することが最大の特徴となります。今回は、その新世代V8エンジンの実力を従来のエンジンやライバルとの比較を通じて解き明かします。



### パワーと効率を両立した新世代のパワーユニット

ベンティガに搭載された新世代のV8エンジンは、強力なパワーと優れた省燃費性能を両立した新世代のパワーユニットです。レイアウト的な特長は、Vバンクの内側にデュアルツインスクロールターボを配置したところ。またボア×ストロークは86×86mmと、ロングストロークであった従来型からスクエアへ変更され、圧縮比も9.3：1から10.1：1と高められています。その結果、従来V8の高性能版であるフライングスパー V8Sよりも、最高出力で22PS、最大トルクでは90Nmも高められました。また、低負荷時に8気筒中の半分を休ませる気筒休止システムやアイドリング・ストップ機構を搭載。気筒休止はわずか20ミリ秒でシームレスに行われるため、乗員には、その働きを感じることはできません。そうした最新技術を採用することで、新世代にふさわしい省燃費性能を実現しました。

### ライバルと比べるとより鮮明になる優れた性能

ベンティガの新しいV8ユニットの実力は、ライバルと比較することで、より鮮明となります。たとえばレンジローバーの500PS級のV8ユニットは5リッターです。ベンティガはより小さな排気量で同様の性能を実現するため、燃費性能ではより優れた数値を得ることができます。また、マセラティのレヴァンテは、3リッターモデルしかないため、ベンティガと同レベルの走りはできません。欧州にはレヴァンテにも500PS級の4リッター V8モデルが用意されますが、燃費性能ではベンティガが勝ります。グループ会社であるボルシェのカイエン・ターボやランボルギーニ・ウルスと比較してもベンティガ V8の優秀さが光ります。動力性能などでは、より軽量なカイエンや、よりパワフルなウルスが勝りますが、これからの時代に求められる環境性能面ではベンティガ V8が上になっているのです。



ベンティガ V8		フライングスパー V8 S	
エンジン形式	V型8気筒ツインターボ	エンジン形式	V型8気筒ツインターボ
排気量	3996cc	排気量	3993cc
ボア×ストローク	86×86mm	ボア×ストローク	84.5×89mm
圧縮比	10.1：1	圧縮比	9.3：1
最高出力	550PS/6000rpm	最高出力	528PS/6000rpm
最大トルク	770Nm/1960~4500rpm	最大トルク	680Nm/1700rpm
0-100km/h加速	4.5秒	0-100km/h加速	4.6秒
最高速度	290km/h	最高速度	306km/h
複合燃費	11.4L/100km	複合燃費	10.9L/100km
CO2排出量	260 g /km	CO2排出量	254 g /km
車両重量	2395kg	車両重量	2417kg

ライバル比較	レンジローバー・SVオート バイオグラフィー・ダイナミック	ベンティガ V8	マセラティ・レヴァンテS	ベンティガ V8	ボルシェ・カイエン・ターボ	ベンティガ V8	ランボルギーニ・ウルス	ベンティガ V8
エンジン形式	V型8気筒スーパーチャージド		V型6気筒ツインターボ		V型8気筒ツインターボ		V型8気筒ツインターボ	
排気量	4999cc		2979cc		3996cc		3996cc	
最高出力	565PS/6000~6500rpm		430PS/5750rpm	win	550PS/5750~6000rpm		650PS/6000rpm	
最大トルク	700Nm/3500~5000rpm	win	580Nm/4500~5000rpm	win	770Nm/1960~4500rpm		850Nm/2250~4500rpm	
0-100km/h加速	5.4秒	win	5.2秒	win	4.1秒		3.6秒	
最高速度	250km/h	win	264km/h	win	286km/h	win	305km/h	
複合燃費	12.8L/100km	win	10.9L/100km		11.7L/100km	win	12.3L/100km	win
CO2排出量	294 g /km	win	253 g /km		267 g /km	win	279 g /km	win
車両重量	2497kg	win	2525kg	win	2175kg		2200kg	

※ win はベンティガ V8 が優っている項目です。



レンジローバースポーツには同じ5リッターV8でも575PS仕様となるSVRがトップパフォーマンスモデルとして用意されている。



日本導入はまだないが欧州では、3.8リッターV8ターボを搭載した550PSのGTSと590PSのTrofeoがラインアップされている。



パナメーラ・ターボにも同じスペックのエンジンが搭載されている。セダンであるパナメーラ・ターボの0-100km/h加速は3.8秒。



ボア×ストロークはベンティガやカイエンと同じだが出力は一段と高くなっている。SUVではクラストップのパフォーマンスだ。